

< 平成 22 年度管理運営の基本的な考え方と重点施策 >

財団法人宗像市総合公園管理公社

平成 22 年度事業計画

財団法人宗像市総合公園管理公社

< 目 次 >

1 . はじめに	1
2 . 平成 22 年度管理運営の基本方針及び重点施策について	
(1) 基本方針	2
(2) 重点施策	
文化事業	3 ~ 6
本館運営 (営業・貸館事業)	7 ~ 8
プラネタリウム運営	9 ~ 10
アクアドーム運営、健康レクリエーション事業	11 ~ 12
(3) 運営全般	
施設管理・安全管理	13
組織・運営体制	14
財政運営	15

1. はじめに

平成 21 年度は、自公政権から民主党を中心とした政権に移行し、「チェンジ」つまり、これまでの逼迫した政治経済の閉塞感を打ち破り、新しい流れが起きる事に国民は期待をした。しかしながら、財源の手当てなどができず、民主党のマニフェストでうたったことが実行されない。あるいは、鳩山総理大臣や小沢幹事長の金にまつわる問題などが表面化し、やはり金権体質との批判が噴出、国民の期待は、一気にしぼんでしまっている。このような社会背景の中ではあったが、宗像ユリックスは創意工夫し、多くの事業を実施してきた。結果、利用者の皆様からは、例年どおりの評価をいただくことができた。

また、(財)宗像市総合公園管理公社の存続にも関わる、第二期指定管理(平成 22 年度から 4 年間)を確保するための、重要な年度となった。紆余曲折はあったが、第二期指定管理を確保することができた。

さて、平成 22 年度については、新たな事業が加わることになった。ひとつは、視聴覚室を改修し、新設された市民ギャラリー(仮称)の運営である。ふたつには、これまで市の主催事業であった 4 事業、「むなかた芸術祭」・「むなかた吹奏楽祭」・「むなかた文化祭」・「むなかたこども芸術祭」が市と公社の共催事業となったことである。市民ギャラリー(仮称)の運営も市の 4 事業の共催も、ほとんど利用料金が見込まれないため、指定管理事業にはなじまない感がある。しかしながら、市の方針は、これから先も文化行政の拠点は宗像ユリックスにおき、その運営は当公社にまかせる、との意思表示であると、強く受け止めたい。

次に重要なのは、公益財団法人への移行準備である。スケジュールとしては、平成 23 年度中に福岡県への移行申請を行い、公益財団法人化を目指す。公益財団法人へ移行するためには、機構及び定款の変更が必要になる。少し具体的に説明すると、公社の運営がこれまでの理事会組織から、評議員会と理事会の 2 つの組織の設置が必要となり、人選を急がなければならない。また、新たな財政システムの構築が必要となるなど、かなりハードな事務量が予想される。

以上のことから 22 年度事業は、これまでの鑑賞型事業、参加育成型事業を展開するといった基本姿勢は堅持しつつ、事業本数は絞りながら、新しい体制への移行に対応して行きたい。

2. 平成 22 年度管理運営の基本方針及び重点施策について

(1) 基本方針

平成 22 年度は、第二期指定管理者制度の初年度である。

運営の基本は市民・利用者を主人公とした施設運営や芸術文化と市民文化を捉えた総合的な宗像文化の振興を図る。また、経営的志向に基づく効率的な管理運営を目指し、公社全職員と関係団体が一丸となって積極的に取り組む。

宗像市文化行政施策との連携・協力

これまでの芸術文化に関するノウハウ・スキルを活かし、市の文化行政施策への積極的な連携・協力を行う。市民ギャラリー（仮称）の管理運営を通して、市所有絵画の企画展示や市民芸術家への支援を行う。また、これまで市が主催してきた文化事業の運営業務を共催で行う。

各コミュニティ運営協議会、各種団体、教育機関との連携など参画・協働の積極的な取り組み

市内各種文化団体や各種教育機関と協働で事業を行うことで、文化芸術活動の普及と振興を目指す。また、新たな客層の掘り起こしを行い将来の客層及び文化活動の賛同者の獲得を図る。

参加・育成型事業への重点シフト

これまでの参加・育成型事業を充実させ市民文化の振興と文化行政への寄与を行う。また、九州管楽合奏団によるクリニックやアウトリーチを強化し、芸術文化と市民文化を捉えた「宗像文化」の振興を目指す。

積極的な営業展開による顧客満足度の向上

利用者ニーズに沿ったマーケティング戦略や様々な顧客サービスの導入を図り顧客満足度を向上させ、利用者増加と収支改善を目指す。

公益法人改革については、会計システムの一部変更と申請に向けた準備にかかる。平成 23 年度の申請を予定し、今後は相当量の事務作業を行っていく必要がある。

【今後の主なスケジュール】

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
【指定管理】		第二期指定管理 H 18.4 ~ H 22.3	第二期指定管理 H 22.4 ~ H 26.3 (想定)			
【法人改革】		第二期指定 管理者の決定				
	H20.12 法施行		5年の間に公益法人への移行申請手続き			
			公益認定申請準備	移行申請手続き (申請 審査 認定)		H25.11 申請期限

(2) 重点施策

文化事業

第一期指定管理期間は、従来の「鑑賞型事業」を中心とした事業展開から「普及・参加・育成型事業」重視へと事業の方向性をシフトした。その象徴的な事業としては、平成 20 年度に実施した開館 20 周年記念事業コラボ劇「姫神の宝物」、県所蔵品移動美術館展「大きなクスの木の下で」がある。また「九州管楽合奏団」のホールコンサート、学校公演、クリニック(楽器演奏指導)、アウトリーチ(出張公演)など特色ある活動を継続的に行った。

第二期指定管理期間は、第一期に蓄積した「普及・参加・育成型事業」の運営ノウハウを更に進化させ、市民・利用者を主人公とする事業展開を行う。

事業展開にあたっては館内だけでなく、地区コミュニティ協議会、市民活動交流館など市内各施設と積極的な交流を図っていく。

また、宗像ユリックスが「市の文化行政を推進していく為の事業拠点」であると位置づけられたことから、各文化団体の発表の場となっている文化祭・芸術祭等を市と連携し実施することで、市の文化行政の一翼を担う役割を強化する。

参加型・育成(普及)型事業の継続と企画内容の充実

九州管楽合奏団の学校公演・クリニックを核として、「チルドレンズミュージアム」、「ピアノでつなぐ音楽会」などを実施する。また、平成 19 年度から 3 年間継続して実施してきた「公共ホール音楽活性化事業」に替わり、22 年度は宗像ユリックス・九州大学 HME 育成ユニット連携事業¹「花から花へ～宮本益光が華麗な世界へエスコート」でアウトリーチ事業のコンセプトを引き継ぐ。アウトリーチ事業は、芸術普及活動・文化活動支持層の拡大、アーティストとの密接なつながり、地域の利便性の平準化など多くの利点がある。平成 22 年度以降も宗像ユリックス単独で継続する。

また、「こどものためのコンサート」や「音楽授業への小編成の派遣事業」などを九州管楽合奏団の新たな事業として検討していく。

鑑賞型事業の工夫のある展開

8 月にハーモニーホールにおいて「九州交響楽団 宗像公演」を実施する。この事業の狙いは、様々な音楽メディアが溢れる現代において、コンサート

¹ HME(ホールマネジメントエンジニア)育成ユニットとは、劇場・ホールなどの文化施設で専門職人材間の調整統括の役割を果たす人材育成を目指すもの。この事業では、九州大学で履修する学生と宗像ユリックスで企画立案からコンサート当日までの運営を協働して行なう。

ホールに足を運び「音楽を生で聴く楽しみ、感じるこころ」を伝える事である。コンサート前に「音学会」と称する講座を 2 回開催し、期待感を高めた上でオーケストラの生の演奏に臨むという企画である。単なる鑑賞型事業に終わらせず、クラシック音楽の普及という目的も併せ持つ。既に、財団法人地域創造の助成内定を受けており、安い入場料金で質の高いプログラムを提供する。

むなかた活性化事業（仮称）

芸術には、人と人をつなぎ、地域を活性化させる力がある。地域で活躍する文化団体にスポットをあて、支援することでその団体の活動が認知され、さらには、宗像ユリックスが地域で必要とされる公共ホールとして認知されることがこの事業のねらいである。21 年度は、「宗像・宮若演劇交流事業」、「ドリームバンドコンサート」、能「空海」の 3 事業を行った。

22 年度は、「玄海灘ジョイントコンサート」、「宗像ユリックス・九州大学 HME 育成ユニット連携事業～花から花へ」を実施する。

～「玄海灘ジョイントコンサート」～

これは、宗像市少年少女合唱団・岡垣町少年少女合唱団・水巻町少年少女合唱団・津屋崎少年少女合唱団の 4 団体が各エリアのホールにおいてジョイントコンサートを行うもので、22 年度は岡垣サンリーアイで実施する。

内容は、各合唱団の発表と 4 団体合同によるミュージカルの発表である。各合唱団の子どもたちの交流による成長が大きく期待される。

～宗像ユリックス・九州大学 HME 育成ユニット連携事業

「花から花へ～宮本益光が華麗なる世界へエスコート～」

九州大学と連携し行うこの事業は、質の高い生の音楽を気軽に鑑賞できる機会を創出し、鑑賞者の更なる育成・拡大に寄与することを目指す。今回のコンサートのテーマを「花」とし、それにちなんだアリア²・歌曲を演奏することで、これまでホールに足を運ぶ機会のなかった人々も興味を引く内容とする。

また、ホールコンサート前に宗像少年少女合唱団へのワークショップと、一般の人々を対象としたアウトリーチを実施する。

宗像市との文化事業に関する連携強化及び地元文化団体との連携。

市の文化事業の一翼を担うべく、従来、宗像市が行ってきた 4 事業を宗像市と連携し行う。具体的には、「むなかた芸術祭」、「むなかた吹奏楽祭」、「む

² オペラなどの大規模な劇的な作品の中の独唱歌曲。詠唱と訳される。

なかた文化祭」・「むなかたこども芸術祭」である。これは、宗像ユリックスが「市の文化行政を推進していくための拠点」であることを示す意味でも重要な事業であり、担当職員を配置し積極的に取り組む。

また、4月に市民ギャラリー（仮称）を開設する。これは、美術ボランティアの協力を得て一流の芸術作品に触れる機会を提供する場として、また市民の作品の発表の場として運営をする。

営業力強化による事業収支の改善

参加型・育成型事業への取り組み強化を行っていく中で、鑑賞型事業の収支改善が必要となってくる。

- 収支を強く意識するマインドの醸成
- チケット販売計画の早期立案と進捗管理
- P.D.C.A.サイクルでの事業管理
- 特定事業（九管ポップスコンサート等）を設定し全員で実施

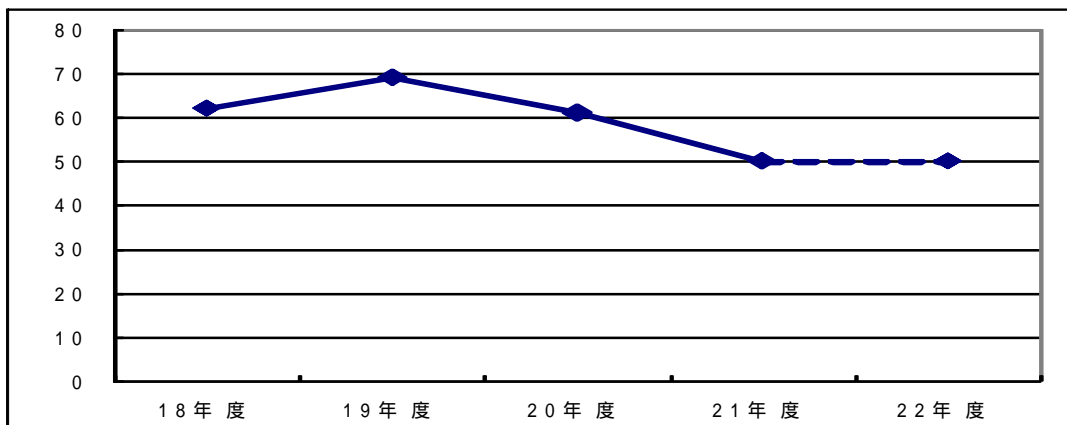
【 数値目標 】 事業本数 【50本】

平成 22 年度は、共催事業を含め年間 50 本とする。古典芸能 5 本、クラシック 9 本、音楽 4 本、演劇 4 本、アウトリーチ 1 本、美術 3 本、映画 12 本、その他（未決定事業含む）12 本、合計 50 本を予定している。

事業本数（ジャンル別）

21 年度は見込値、22 年度は目標値

事業ジャンル	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
音楽(クラシック)	9	7	7	5	9
音楽(クラシック以外)	6	9	8	5	3
映画	20	20	15	15	12
演劇・古典芸能	9	9	9	9	9
美術	1	2	3	3	2
アウトリーチ	6	5	7	3	3
その他	11	17	12	6	7
未決定事業				4	5
合計	62	69	61	50	50



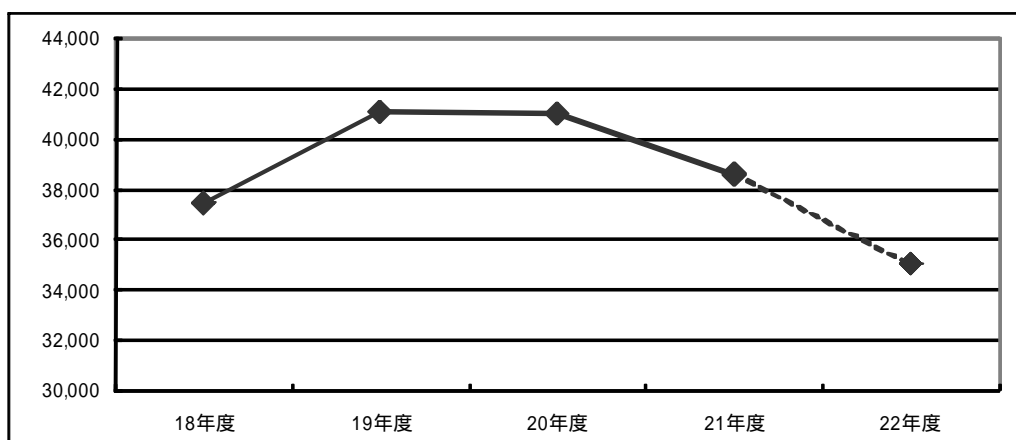
【 数値目標 】 入場者数 【35,000 人】

入場者数は、事業本数 50 本実施を前提条件として、35,000 人を目標とする。平成 21 年度同様、事業毎の目標を明確にし、達成に向けた施策の立案・実施を行う。特に九管ポップスコンサートなどの特定事業については、事業部全員で P D C A の管理サイクルを徹底し、チケット拡販を行う。

文化事業・入場者数の推移

21 年度は見込値、22 年度は目標値

	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
入場者数	37,439	41,070	41,000	38,560	35,000
対前年比	179.5%	109.7%	99.8%	94.0%	90.8%
対前年人数	16581	3631	70	2440	3560



【 数値目標 】 「ユリックス倶楽部」会員数 【3,500 人】

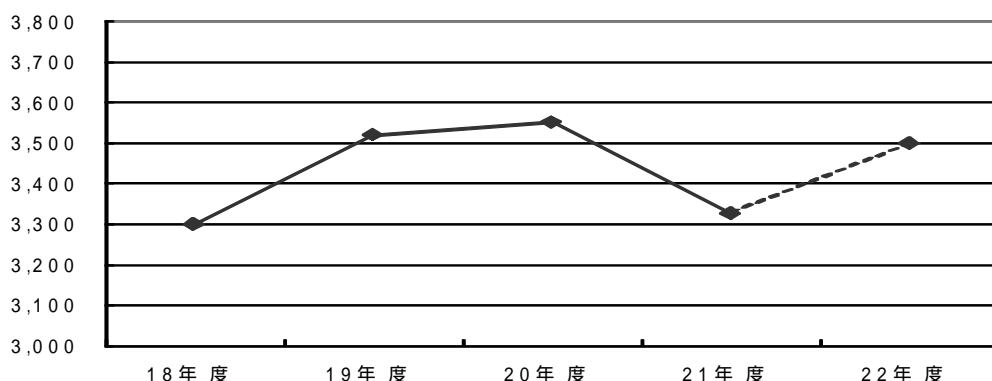
会員数目標 3,500 人（前年会員数 3,327 人、前年比 105.2%）とし、以下の対策に取り組む。

- インフォメーション、電話でのチケット購入時の勧誘の徹底
- 館内告知の強化
- 勧誘チラシの新聞折込（宗像市・福津市・宮若市）
- 前年会員で非継続会員へのダイレクトメール（宗像市・福津市・宮若市）

「ユリックス倶楽部」会員数の推移

21 年度は見込値、22 年度は目標値

	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
会員数	3,300	3,521	3,553	3,327	3,500
対前年比	154.9%	106.7%	100.9%	93.6%	105.2%
対前年人数	1,170	221	32	226	173



本館運営（営業・貸館事業）

第二期指定管理期間の初年度となる 22 年度は、視聴覚室の廃止による減収を補うため、新たな収入源の確保に取り組む。「夜間有料学習室」や「舞台上で気軽にピアノレッスン」などお客様に支持されたサービスのサクセス事例を継続、拡大することで新たな顧客層を開拓し「利用者数アップ」、「稼働率アップ」、「利用料金収入アップ」へつなげる。

これまで取り組んできたサービスに満足することなく、アンテナをはりめぐらし積極的に顧客ニーズへ対応し、常に新たなサービスを導入していく。

夜間区分³の貸出について、現在の取り組みを継続的に実施するとともに、新割引案を導入して夜間区分の利用率 40%を目指す。

また、ホームページについて「利用者に知らせたい情報」だけでなく「利用者が欲しい情報」の掲載という 2 つの観点を再認識し、更なる充実を図る。

【 数値目標 】

3 大施設平均利用率 80% 【大ホール 80%、中ホール 80%、展示室 80%】

3 大施設利用率の推移

21 年度は見込値、22 年度は目標値。

	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度
	実績利用率	実績利用率	実績利用率	見込利用率	目標利用率
大ホール	77.0%	86.1%	79.9%	82.0%	80.0%
中ホール	83.4%	83.2%	83.0%	86.2%	80.0%
展示室	84.7%	87.0%	88.7%	79.5%	80.0%

利用率は、貸出可能日数のうち利用された日数の割合

³ 施設については、午前（9 時～12 時）、午後（13 時～17 時）、夜間（18 時～22 時）の 3 区分で貸出。

本館等利用者数 570,000 人 / 本館等利用料金 61,000,000 円

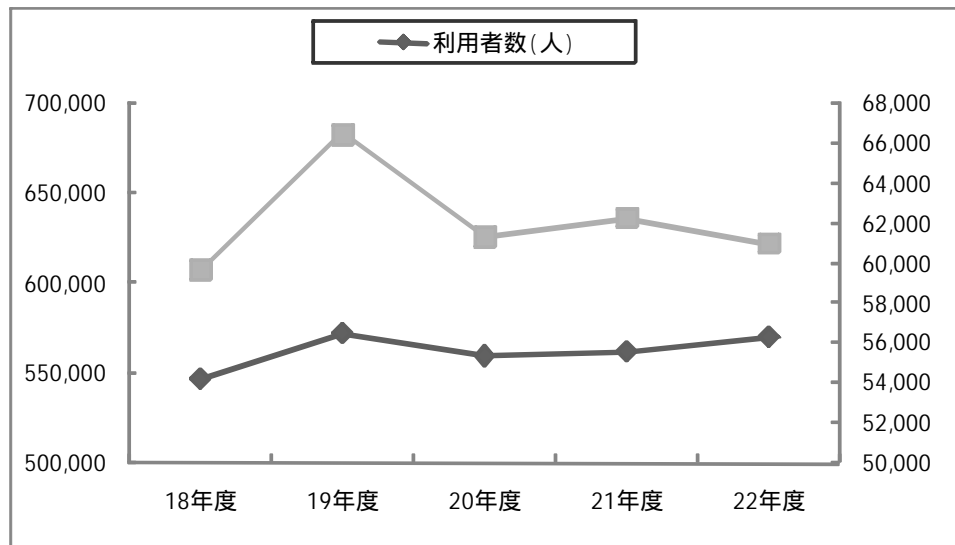
本館利用者数・利用料金の推移

21 年度見込値、22 年度は目標値。

	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
利用者数(人)	546,522	572,437	559,610	562,000	570,000
対前年比	88.9%	104.7%	97.8%	100.4%	101.4%
利用料金(千円)	59,626	66,499	61,333	62,283	61,000
対前年比	115.6%	111.5%	92.2%	101.5%	97.9%

利用者数：本館一般施設、図書館の利用者と視察者の合計人数

利用料金：本館一般施設の利用料金収入額



プラネタリウム運営

特定非営利活動法人エム・ワイ・ピー（以下「MYP」）との「協働」運営の 5 年目であり、基本的な事業の方向性・指針はこれまでどおり「地域に愛されるプラネタリウム」を目指すことを第一に事業を展開する。

平成 22 年度は、1 月から 3 月にかけてすべての機器を入れ替える大規模なリニューアル工事が行われる。導入事例が少ないプラネタリウムの老舗「カール・ツァイス社」製の光学式プラネタリウムと、超高精細プロジェクターによるドーム映像による話題性は抜群であり、さらに機器の能力向上により、今までにないプラネタリウムの可能性を広げることができる。

平成 22 年度は、このリニューアルに向けたアクションを中心に事業計画を立案する。

季節番組は、リニューアル期間を除き、夏・秋・春の番組制作を行い、リニューアルオープン時の春番組は、新光学式プラネタリウムを活かし、国内 4 館しかない稀少性を PR しながら番組を行う。

こども番組は、過去の「ルンちゃん〜」シリーズを 2 作品程度公開し、リニューアルに向けて、新こども番組の公開を行う。プラネタリウム、そしてユリックス全体に愛着を持っていただける内容とし、より地域とプラネタリウムが密着した関係を築く。

CG ビジュアル番組は、夏休みまで「世界星空遺産」を行い、その後、プラネタリウムの歴史やユリックスの活動、そして新しいプラネタリウムについて構成された番組を公開し、リニューアルへ向けた期待感を高めていく。リニューアルオープン時には、新しいデジタル機器の効果を活かした番組を公開する。今までにないプラネタリウムの表現を活かした内容により、リニューアル効果を PR する。

さらに、今回のリニューアルは注目される点が多いため、マスコミに対する PR を積極的に実施する。広報活動は、宗像市の関係部署との連携をはかり、リニューアルにおける来場者数増を狙う。

「サイエンスカフェ」は、2 回実施する予定で、宗像地域で唯一「サイエンス（科学）」をテーマとした施設の特性を活かした運営を行う。

ほしぞらスタッフ（ボランティア）活動については、平成 21 年度は入会者数が急激に増加（12 人）し、さらに問い合わせが多い状況が続いている。22 年度も引き続き参加者を増やし、より活発な活動を行っていく。

【 数値目標 】

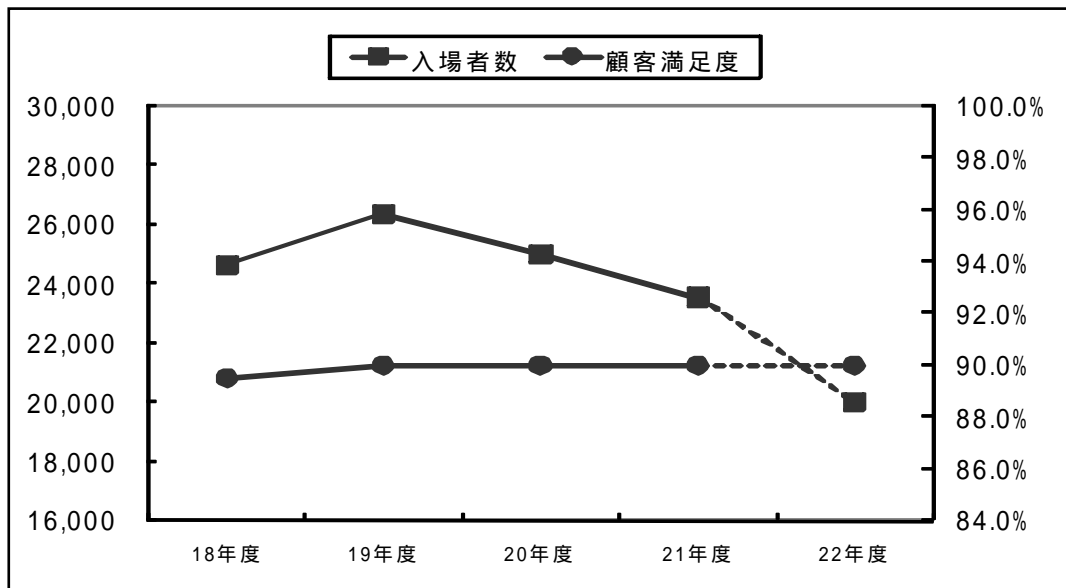
プラネタリウム入場者数 【20,000 人】

顧客満足度 【90%】

プラネタリウム入場者数の推移

21 年度は見込値、22 年度は目標値

	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
入場者数	24,637	26,377	25,000	23,558	20,000
対前年比	113.4%	107.1%	94.8%	94.2%	84.9%
顧客満足度	89.5%	90.0%	90.0%	90.0%	90.0%



平成 22 年度は改修工事により 3 ヶ月間休止予定のため、実働 9 ヶ月での入場者目標数

アクアドーム運営、健康レクリエーション事業

アクアドーム

基本的な方向性は、健康づくり拠点としての機能強化、一般利用者の増加策、宗像市関連部署との連携強化を指針とする。

健康づくり拠点としての機能強化

健康づくり拠点としての機能強化策として、健康づくり運動の実践者としてのウエルネスクラブ会員を増やすため、会則の見直し（利用時間制限撤廃⁴、40歳未満の会員種別新設⁵）を検討する。また、特定保健指導修了者（アクアドーム・健診センター・訪問）にウエルネスクラブへの入会を促進するため、宗像市民に対して、アクアドームプログラムをPRする。

一般利用者の増加策

特に平成 20 年度は、アクアドーム改修工事及び景気後退などによる利用者離れを受け、アクアドーム利用者数も減少した。年度別データを見ると、定期利用者が伸びた一方、一般利用者は減少傾向にあるため、今後はウエルネスクラブやプールの年間利用者からの紹介キャンペーンなど一般利用者増加策を行っていく。また、平成 20 年度実施のアンケート調査からアクアドーム自体の知名度の低下が見て取れることから、広報紙や新聞折り込みチラシによるプログラム内容・運動効果の紹介を行っていくことで認知度を高めたい。

宗像市内の 3 大学（福岡教育大学、東海大学附属福岡短期大学、日本赤十字九州国際看護大学）在籍の学生が団体料金で利用できるように検討する。

宗像市関連部署との連携強化

特定保健指導については、現在 6 ヶ月間プログラムを実施しているが、さらに内容を充実させるため「3 ヶ月間プログラム積極的支援アクアドームプログラム」案を作成する。なお、計画の作成、実施にあたっては、宗像市の関連部署とはよりいっそう連携を密にしていくこととする。

⁴ ウエルネスクラブ会員及びプール年間利用者は、H 20 年度現在 1 人 1 日 2 時間の利用となっているが、特にウエルネスクラブ会員が複数施設を利用する場合に時間が足りないという意見への対応策。

⁵ ウエルネスクラブ会員の年齢構成の中で極端に低い 30・40 歳代に対するコスト負担が比較的少ないプログラム。新たな顧客層の獲得と早期からの健康づくりを目指す。

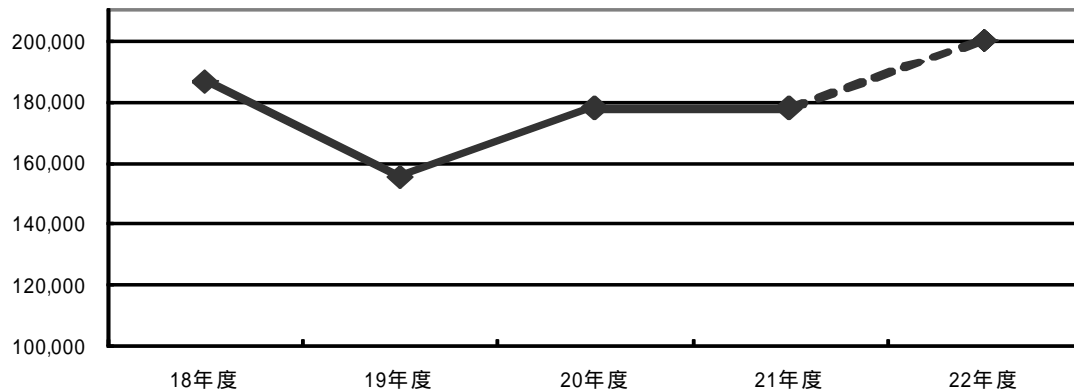
【 数値目標 】 アクアドーム入場者数 【200,000 人】

アクアドーム・入場者数の推移

21 年度は見込値、22 年度は目標値

	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
入場者数	186,630	155,119	178,000	177,824	200,000
対前年比	102.9%	83.1%	114.8%	99.9%	112.5%

平成19年度は改修工事による2ヶ月間営業休止のため、実稼動10ヶ月間での入場者数



パットゴルフ

【 数値目標 】 入場者数 7,500 人

健康維持を目的とした愛好家やファミリーでの利用など幅広い利用形態が見られることから、愛好家向けのペアパットゴルフ大会だけでなく、初心者向けの大会などを計画していく。

利用者増加策として、需要期（3月～6月、9月～11月）に、主催事業でのチラシ折り込み、ユリックス・サラダでのPRを効果的に行う。

パットゴルフ場が、芝生広場の南側に位置しており、お客様が安全にそして安心して時間を過ごすことができる様に、人員を配置し、芝生広場全体の安全管理に努めていく。

ゆ～ゆ～プール

【 数値目標 】 入場者数 45,000 人

ゆ～ゆ～プールでは、ファミリー層（幼児、小学生低学年）をターゲットとしたサービス展開や子ども会などの団体が利用しやすいパック商品の利用を拡大する。

また、文化事業とプラネタリウム事業との共同チケットを販売する。

テニスコート

【 数値目標 】 入場者数 28,000 人

テニス教室やテニス大会の実施にあたっては、グローバルアリーナの協力を得て行っていく。特に、初心者が参加しやすいサービス内容を検討し、利用人口の底上げを図り、入場者数 28,000 人を目指す。

(3) 運営全般

施設管理（ハード）・安全管理

平成 21 年度は、本館駐車場周辺の大掛かりな植栽剪定を行った。見通しも良くなり、夜間利用のお客様の安心・安全を守るための効果があった。平成 22 年度も引き続き公園内の剪定作業を進めて行く。また、施設全体の安全総点検の実施や積極的な修繕を行っていく。

宗像市が実施している保全工事については、平成 21 年度に本館東ゾーンの青少年センター跡⁶の改修工事や本館内の空調設備工事や非常用発電機・蓄電池設備工事が完成し、快適で安心な施設運営が行われている。また、視聴覚室を全面改装して市民ギャラリー（仮称）とする工事も、急な工事ではあったが年度内に完成することが出来た。ただし、微調整を図る上で 22 年度に一部工事を行う予定である。

その他の大きな工事としては、プラネタリウム投影機の改修と座席を新たに置き替えてお客様に快適な空間を提供する。

今後も適切・効果的な保全工事实施のために宗像市との連携をさらに続けていく。

⁶ 平成 21 年 3 月末で、青少年センター（138 m²）は宗像市市民活動交流館（メイトム宗像）の敷地内に移動。

組織・運営体制

第二期指定管理をむかえ、なお一層の市民ニーズに応える運営を行っていくためには、組織・運営体制の在り方が重要な問題であり、各部が相互に連携補完して組織全体の能力を最大化するように努める。特に、「貸館事業」と「文化事業」は、文化施設の両輪とも言うべき密接な関係にあり、インフォメーションを基点に、“営業展開・販促の推進”や“お客様へのサービス向上”を目指し、相互に連携協力を行う。この他にも文化施設の管理運営においては多くの業務が相互に関連していることから、「スタッフ全員が一つのチーム」という共通認識を持って日々業務に邁進する。

そのために、現在運用を行っている「宗像ユリックス・新人事管理システム」⁷及び「人事評価制度」⁸によるインセンティブ効果、職員研修の充実などの方策によって、公社職員一人一人の能力を向上させるとともに、組織力の強化を図る。

また、第二期指定管理から新たに増加した宗像市文化行政に関する業務遂行を行うため、職員の新規採用を含む組織の改編を行い、宗像市の文化振興の一翼を担うにふさわしい組織の構築を目標とする。

さらに、平成 23 年度の公益財団法人認定の取得に向けて、理事会・評議員会など統治機構の在り方をはじめとした諸課題について準備を行っていく。

人員体制の推移

	18年度 (19年3月末)	19年度 (20年3月末)	20年度 (20年3月末)	21年度 (21年12月現在)	22年度 (22年4月予定)
市派遣職員	6	4	3	3	2
プロパー職員	7	3	3	3	4
専任職員	-	1	2	3	3
嘱託職員	9	10	9	8	9
臨時職員	38	17	18	19	18
合計	60	35	35	36	36
特記事項	第1期指定管理 (1年目) 19年3月末 指定管理 期間満了により正 助ふるさと村部廃止	第1期指定管理 (2年目) 19年4月 新人事管理 システム運用開始	第1期指定管理 (3年目) 人事評価制度 試行開始	第1期指定管理 (4年目) 最終年度 人事評価制度 本施行開始	第2期指定管理 (1年目) 初年度
総務部					
事業部					
正助ふるさと村部		-	-	-	-

⁷ 公社職員を中心とする組織を目指し、平成 19 年 3 月策定。職位、待遇等について規定。

⁸ 「宗像ユリックス人事評価制度」。平成 20 年度を試行期間とし、平成 21 年度より運用開始。

財政運営

第二期指定管理期間の初年度となる平成 22 年度は、「指定管理者として安定的な管理運営を遂行するため、中長期の財政状況を展望し、できる限り経常経費の圧縮、削減を進める」という従来の運営指針を引き続き堅持する。また、現在運用中の「新・公益法人会計方式」による予算科目・部門別及び宗像ユリックス全般の管理運営状況についてのデータ蓄積を活かした、公社ならではのフレキシブルな財政運営を行っていく。そのための「オフィシャル・スポンサー制度」⁹の活用や、ユリックス倶楽部会員及び施設利用料の増加、各種販売事業による手数料収入増加等の独自財源の確保、各業務委託料の精査等、財務体質の改善を図っていく。

公益法人改革については、平成 23 年度申請予定の公益法人認可を目指し、新しい公益法人会計への移行に向けての準備を行っていく。

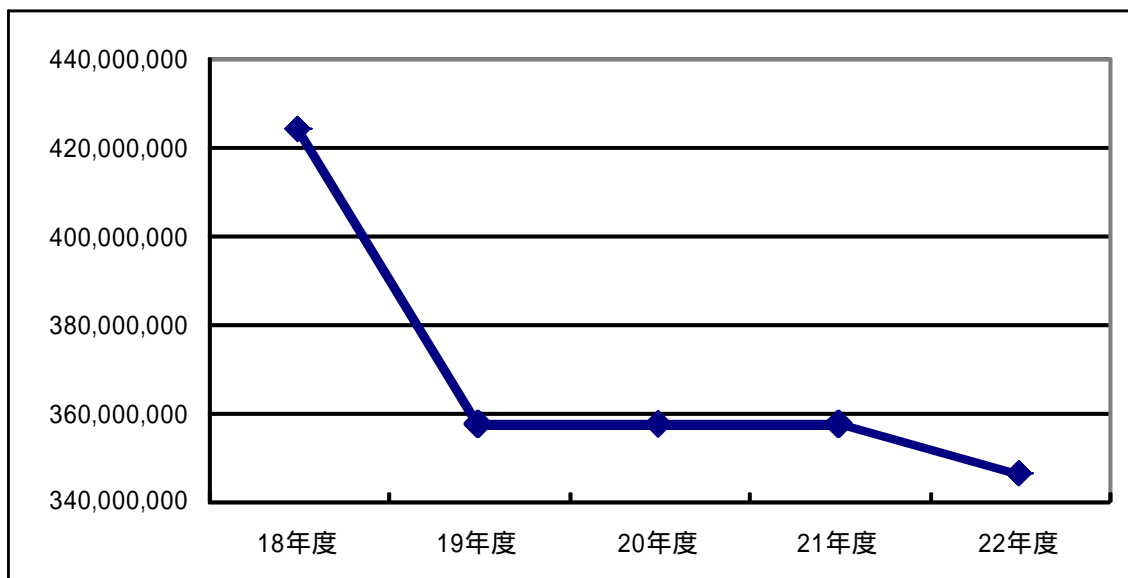
管理運営コストの推移

予算ベース	18 年度	19 年度	20 年度	21 年度	22 年度
管理運営コスト	424,236,000	357,308,000	357,308,000	357,308,000	346,083,000
対前年削減額	19,804,000	66,928,000	0	0	11,225,000
対前年削減率	95.54%	97.28%	100.00%	100.00%	96.86%

19 年度より正助ふるさと村分経費分離（平成 18 年度実績額：56,928,000 円）

19 年度の対前年削減率は 18 年度正助ふるさと村経費削除分（367,308,000 円）と比較

22 年度より指定管理業務が 2 つに分割（北・南）となったが、管理運営コストは合計額を表記。



⁹ 宗像地域の文化振興を目的とした支援制度。パートナー料は宗像ユリックスの文化事業（特に参加型・育成型事業）へ活用。平成 19 年 1 月 26 日、宗像医師会と協定を締結し、平成 22 年についても更新。